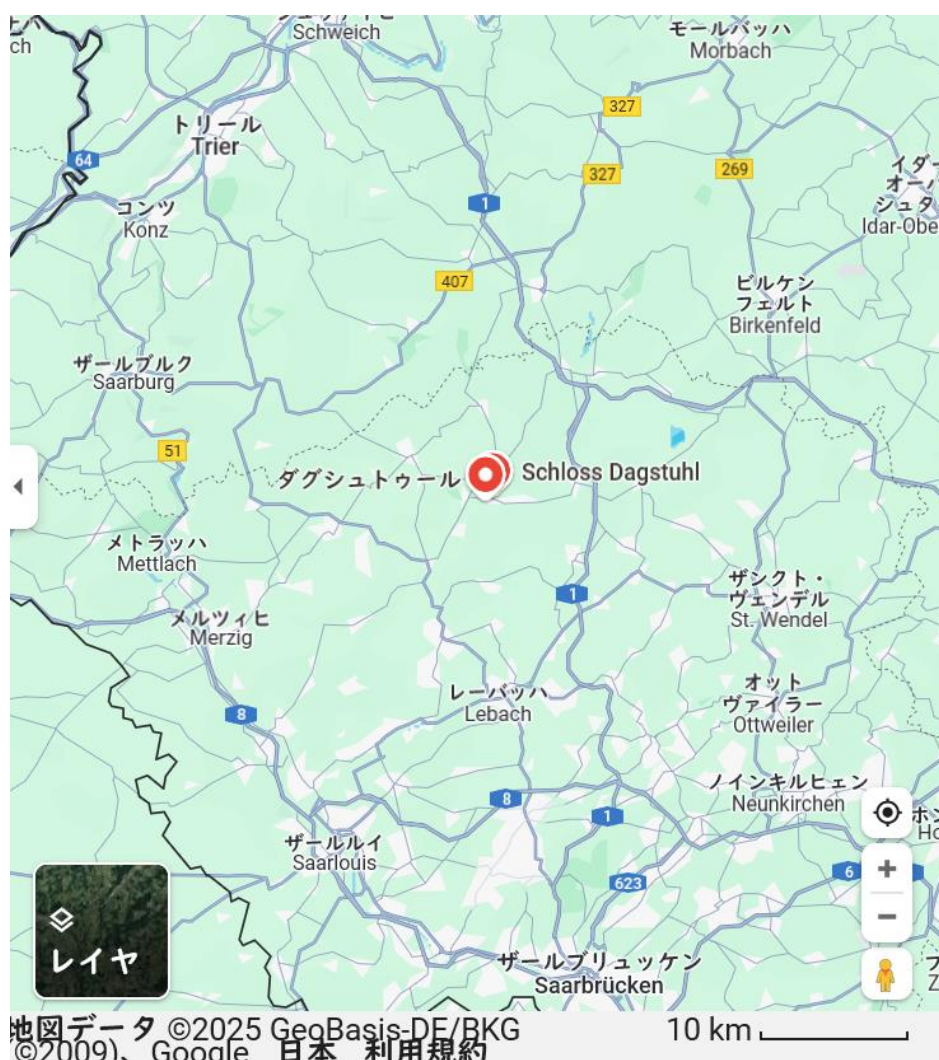


写真アルバムから

シリーズ A 寺社華風月（デジタル・カラー）

A3 ダグシュトゥール 2001

森隆一



A3 ダッグシュトゥール 2001

次の研究集会に参加した。

CCA Dagstuhl Seminar 2001, in Dagstuhl, Germany, 11-16 November
2001

ダッグシュツール城(Schloss Dagstuhl)

ザールブリュッケン(Saarbrücken)にあるザールラント大学の研修施設
ということを見た気がするが定かではない。

次の写真は研修所の外から撮ったものある。





上の写真は門の内側で撮ったものである。最初の写真ではよくわからないが、右手にある3つの建物と左の建物とは雰囲気異なる。

次頁の2枚の写真のうち、上の写真は左の建物を撮ったものである。2枚の写真から屋根裏部屋用の小窓は6個見られる。下の写真は左の建物奥にある建物である。中央やや右渡り廊下の奥の建物は本稿3枚目の写真の建物である。奥の建物を旧館手前の建物を新館と呼ぶことにする。外見で異なるのは、1階と2階の窓である。旧館は欧州の古い民家に見られる板窓とガラス窓の二重サッシである。ただし、見てはないが、ガラス窓は二重ガラスのサッシになっていると思う。一方、新館は二重ガラスのサッシのみとなっている。



筆者が泊まったのは新館で、写真で右から2つ目の窓の部屋である。
次の写真のように、1つ小窓に1部屋が対応している。新館は短辺にも2
部屋つつ有りそうなので屋根裏部屋は28室となる。旧館の1回と2階も
宿泊室とすれば各階窓が8つあるので32室となる。



下の写真は右にひろがる庭園を撮ったものである。逝ったのが11月なので芝生と



門から道は真っすぐ伸びていて、左側の建物の後ろには、上の写真に合わせた施設が建てられている。道の左側は少しさがっていて、下の写真のように、矩形のビルとこれを囲むように回廊風に平屋の宿泊棟が建てられている。

ビルの2階は講演会場で、1回にはパソコン・ルームがあった。宿泊棟の北側部分は管理棟となっていた。



次の写真は泊った部屋から見た宿泊棟である。

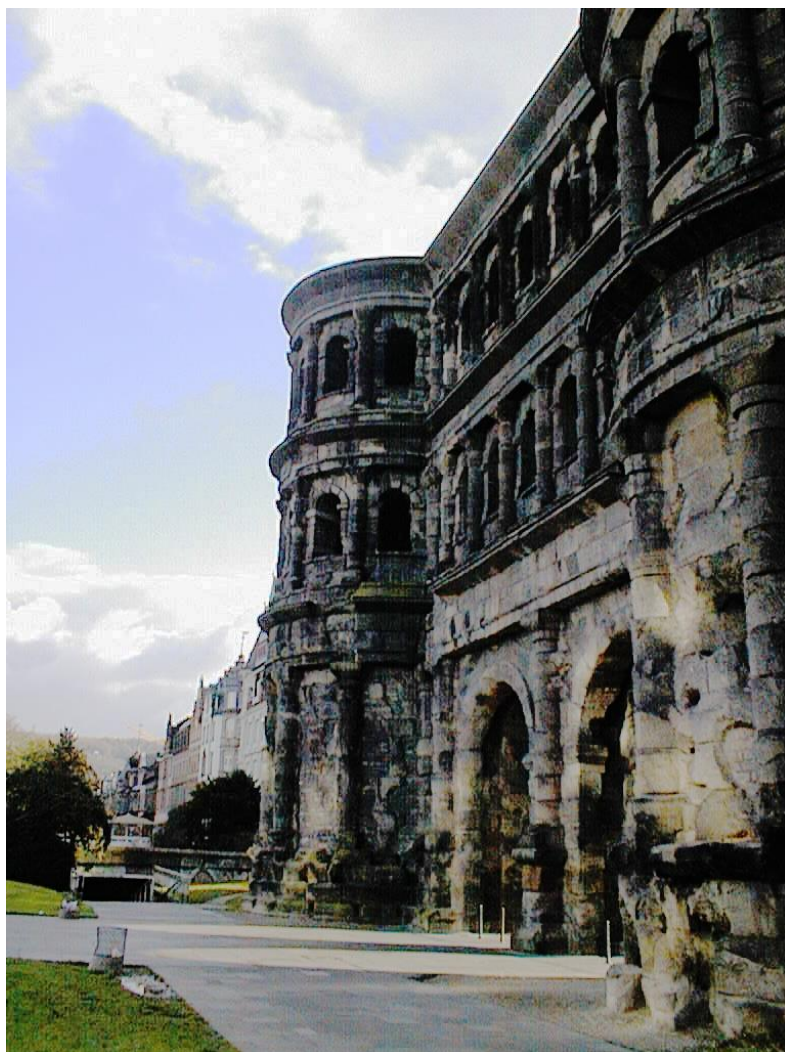


トリアー (Trier)

リクリエーションでは、ハイキング・近所の散歩・トリアーの3つが用意され、トリアーを選んだ。選んだのは3人だったので、車で来ている実行委員が案内することになった。Google Mapを見ながら振り返ってみる。まずは、トリアーはモーゼル河畔にあるローマ時代から続く歴史的都市で、研修所からは数十キロで車で小一時間の距離である。時間もあまりなく Kaiserthermen(皇帝の浴場)に急ぐことになり、写真を撮る時間は殆どなかった。

まずは、ポルタ・ニグラ(黒門)である。





上の2枚の写真は、共に門の内側(南側)から撮ったものである。この門の南側は広場になっていた。広場の東側と南側は車道になっている。この道はバスのみ通交可能かもしれない。道を渡ると石畳の歩行者専用が100m程続き、広場となっている。この先は二股に分かれている。広場までが旧市街その先が新市街のようである。

次の2枚の写真は、広場から東を撮ったものである。上の写真はトン・カーブ補正をしているが下の写真はしていない。ここに写っている連節バスは連節部分がかなり長い。





上の2枚の写真は、南の広場の建物である。下の写真はカール・マルクスの生家と思われるが定かではない。

旧市街の通りの東の通りには教会などのっ単独で大きな建物が建ち並んでいて、その南の端に Kaiserthermen がある。浴場は時間がないことと暗かったため写真を撮っていない。

次の写真はなんとか撮ることのできた教会の写真である。



